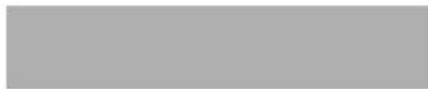


おしか半島
Live Together アート祭り
～artはつなぐ～

提出先 多摩美術大学 芸術学科 様



〈意図〉

私は、アートを通して人びとの絆を深め、互いに助け合うことのできる社会を作ることによって人々の孤立をなくしたいと考えている。

以前、私は東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県石巻市十八成浜・鮎川浜に建設された災害公営住宅の空き家の増加や地域住民が災害によって急激に減少したことで産業が衰退しているというニュースを見た。この問題について調べてみたところ、震災による心の傷や経済格差により、地域住民がコミュニケーションをとることが難しいという状況に陥っていることも知った。

私は、震災から13年を迎ようとしている現在も、震災前の生活に戻すことは容易ではなく、震災による被害や心の傷によって人のつながりが途切れてしまうことがあると気づき、被災者がかつてのように人との関わりを築けるようにすることや被災地域の活性化に尽力したいと考え、おしか半島Live Togetherアート祭りを企画することにした。

十八成浜・鮎川浜が抱える問題

災害公営住宅の空き家が増加しており、自治体が対応に追われている状況である。

空き家の増加している原因は十八成浜・鮎川浜の住民、約8割が高齢者であり、災害公営住宅に住む高齢者が亡くなったり、施設に入居する人が増えたり、若い世代の移住者がおらず、人口が減少しているからだ。

新型コロナウイルスの感染拡大以降、住民間の交流の機会が減ったことで災害公営住宅に住む高齢者の孤独死も増加傾向にある。

解決するために

私は十八成浜・鮎川浜の高齢化や住民の交流を活発にし、地域住民が互いを助け合いながら生活できるようにするために、おしか半島Live Togetherアート祭りを発案する。

この企画は地域住民に加え、市街や県外からの観光客なども対象としている。アーティストが公営住宅に滞在し、地域住民と共に祭りの準備を行うことで住民の交流を活発にしていくことや祭りによって開催地域以外からの人を呼び込むことで地域を活性化させ、将来的な移住者を増やし、更なる高齢化を防ぐことを目標としている。

〈企画概要〉

1. アーティストが滞在し、神輿や山車を制作する
2. アーティストと住民が協力して祭りの準備をする
3. 祭りによって地域を活性化させる、伝統や郷土料理を受け継ぐ

内容 1 アーティストの滞在制作

アーティストが宮城県石巻市十八成浜・鮎川浜にある災害公営住宅の空き家に滞在し、地域住民との交流をしながら山車や神輿を制作する。



アーティスト 25名 滞在期間5月1日～9月下旬

※私は企画運営者兼アーティストとして参加する

募集日程

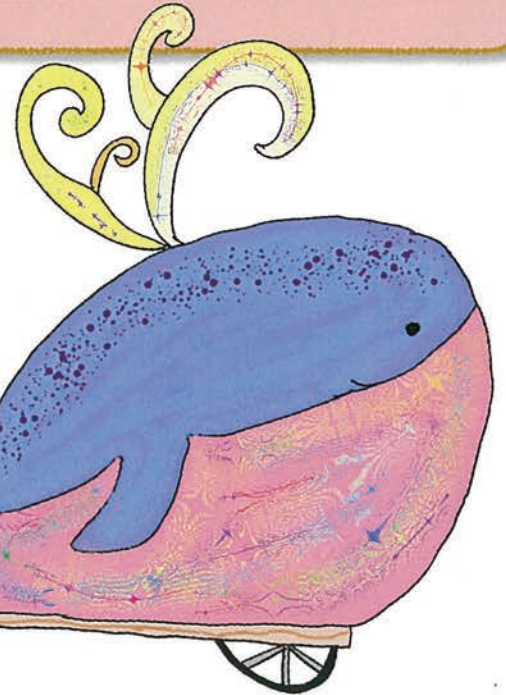
2025年1月上旬 オンライン説明会

募集一次 2025年1月15日～2月10日

二次 2月15日～2月28日

※多い場合は抽選 3月中旬に参加可否をメールでお知らせ

4月上旬 参加アーティスト打ち合わせ（対面）



アーティストは滞在期間中にリサーチを行い、牡鹿半島の特産物や地域文化をモチーフとしたユニークな神輿・山車を制作する。

牡鹿半島は捕鯨が盛んだったよ！

・準備

2024年12月にホームページと公式SNSを開設し、イベントの宣伝やアーティストや祭りのボランティアの募集・ワークショップの参加申し込みを行うための専用メールフォームを作る。

十八成浜・鮎川浜の住民向けにイベントの開催と滞在制作についての説明会を行う。

・取り組み

アーティストが5人1グループとなって牡鹿半島の名産品や地域文化、郷土の説話をモチーフとした神輿や山車の制作や地域住民と共に祭りの準備をする。

制作風景をタイムラプスで記録したり、グループで交換日記をしたりもする。（親睦を深める、記録のため）

・作品発表

2025年9月に行われるおしか半島祭りの当日に、地域の人とアーティストが神輿を担ぎ、山車を引いて会場周辺の住宅街を練り歩く。

祭り終了後は石巻市立荻浜小学校に1ヶ月間展示する。

・滞在制作終了後の取り組み

各グループのアーティストが書いてきた交換日記を編集して、書物として出版する。

全国の美術館の土産売り場で販売する。

～公営住宅に住む住民との親睦を深める～

つながるおうちで朝顔プロジェクト

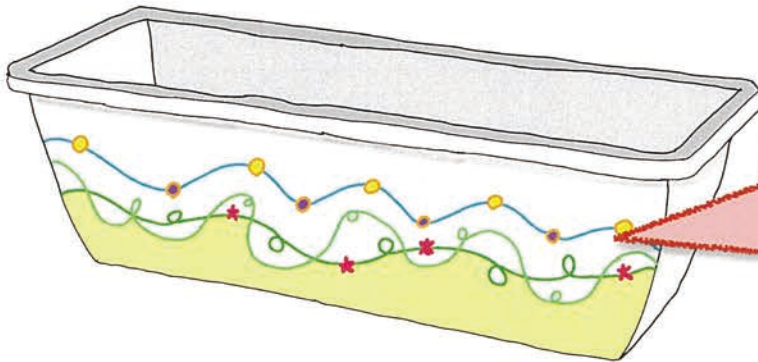
日時：2025年5月15日

地域密着型のアートプロジェクトを行う際には地域住民と信頼関係を結ぶ必要がある。災害公営住宅に住む住民とアーティストが協力してプランターで朝顔を育て、公営住宅に緑のカーテンを作る。

・準備

4月に行う参加アーティストの打ち合わせの際に朝顔を植えるプランターを渡し、プランターに絵やデザインを描いてきてもらう。

5月1日の滞在初日に運営が回収する。全部で30個のプランターを用意する。



災害公営住宅の窓辺にさまざまなデザインのプランターが並ぶ。
住宅街が華やかな雰囲気になる。

・取り組み内容

アーティストと災害公営住宅で暮らす住民が集まって朝顔の種を植える。

成長に合わせて支柱やネットの取り付けを協力して行う。

滞在終了時に全ての家の朝顔の種を収穫する。

収穫した種は保管し、次の年も公営住宅で育てられるようにする。

収穫した種の一部を右図のデザインの子袋に入れ、宮城県内のスーパーや花屋で販売し、売上金を自治体に寄付する。

種を毎年植えることで未来につなげることができ、販売して多くの人の手に届くことで、いろんな思いが種に込められていく。

種がさまざまな地域の環境に適応していく生命力を感じられる。

このアサガオは宮城県石巻市十八成浜・鮎川浜で開催されたLiveTogetherアート祭りに参加したアーティストと地域住民が育てたアサガオの種です。大切にそだててください！

つながる
おうちで朝顔プロジェクト



宮城県石巻市十八成浜・鮎川浜

私が滞在中に行うワークショップ

ポエマーポストで地域をあそぶ 『ライト・オン・ザ・プラネット』

風の心地よさ、波の音、森の香りなどを感じながら十八成浜・鮎川浜を散策し、見たもの、感じたことを詩に表現して景色や思いを未来へつなぎ、残していくワークショップ。新たな発見がきっとあるはず。

・準備

公式ホームページとSNSにてワークショップ開催のお知らせをする。
第1回・2回どちらもメールフォームから参加申し込みをしてもらう。

内容

〈第1回〉

～ポエマーポストをつくろう～

日時：2025年5月3日 場所：石巻市立牡鹿中学校

実際に設置するポストをみんなで作る。木材（牡鹿半島産）とペンキを利用する。

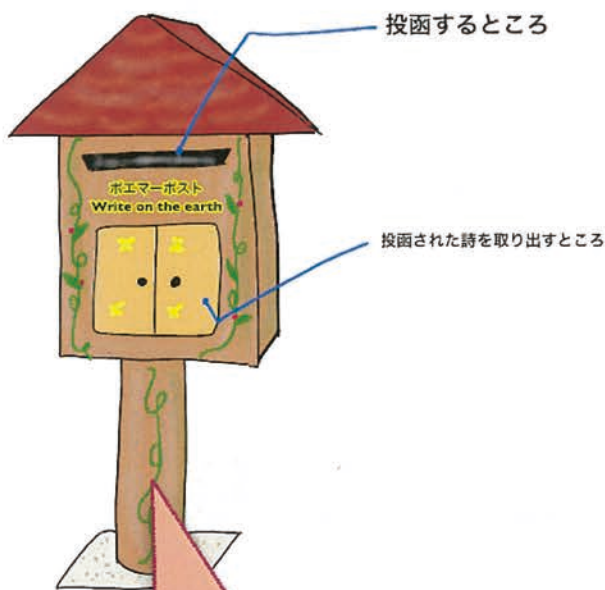
〈第2回〉

～ライト・オン・ザ・プラネット：詩を書いてみよう～

日時：2025年5月4日 集合：ホエールタウンおしか捕鯨船前

みんなで地域を散策し、心が動いた風景を詩にする。

書いた詩を回収して、ポストに入れる



ポエマーポストの使い方（ホームページにも記載する）

<p>1 カードを手に入れる</p> <p>無地のカードと詩が書かれたカードを1枚ずつポストから取り出す</p> 	<p>2 街を散策する</p> <p>詩が書かれたカードを見て、その詩が街中のどこの景色を表現しているのか探す</p> 
<p>3 詩を書く</p> <p>場所が見つかったらその景色を詩で表現して無地のカードに書く</p> 	<p>4 ポエマーポストに投函する</p> <p>自分の作った詩を書いた紙をポストに投函する 詩が書かれていた紙は持って帰ってね</p> 

このポストが十八成浜・鮎川浜のいたるところに滞在終了時まで設置される。
買い物や散歩の途中など、好きな時間に歩いて詩を書いてOK!

カードに書かれた詩が表現された場所と自分が散策して見つけた場所が一緒でなくても大丈夫！
地球をめいっぱい感じて、感じたことを素直に表すことがだいじ。

内容 2 祭りの開催内容

①宵祭

大漁旗・法被をつくろう

日時：2025年9月13日 10時～18時 場所：石巻市立牡鹿中学校体育館

宵祭では本祭に向けて、アーティストと地域住民がグループになって大漁旗や自分だけのオリジナル法被を作る。

・準備

ホームページとSNSで宵祭の開催を告知する。

参加申し込みは公式サイトのもフォームから行ってもらい、先着40人の参加を可能とする。

・活動内容



アーティスト×5人
(滞在制作で共に神輿・山車を制作した5人)



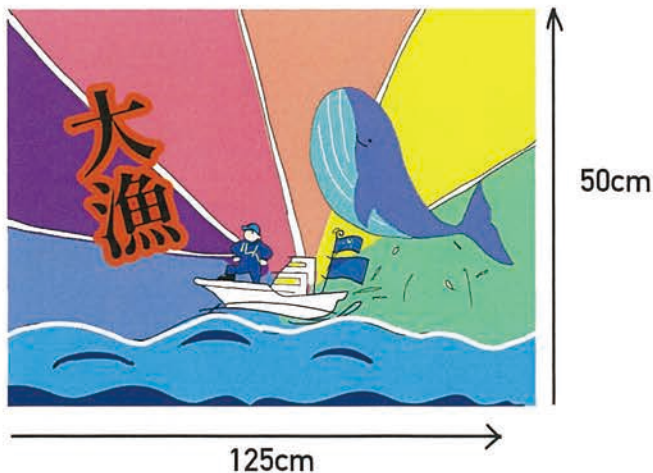
参加者8人
主に十八成浜・鮎川浜の住民

計13名で1グループ

前夜祭ワークショップはアーティスト・地域住民の参加者合わせて13人程度で行う。祭り当日にはこのグループメンバーで広場近辺の住宅街を、神輿・山車を引いて練り歩く。

大漁旗の制作

本祭の開会セレモニーで出港する船に飾る大漁旗を1グループ2～3つ制作する。



バスタオルサイズの布を使う。
油性ペン・アクリル絵の具を利用する。裁縫も可能。

オリジナル法被の制作

1人1着法被に絵を描き、オリジナル法被を作る



絵を描いた法被は本祭で住宅街を練り歩く際に着用する。
法被は運営側が用意する。

② 本祭

日時：2025年9月14日 10時～19時

開催場所：宮城県石巻市鮎川浜 ホエールタウンおしか捕鯨船前広場

観光施設に隣接しているため、
屋内での休憩やトイレの利用、救護の設置も可能で安全にイベントを行える。



祭り内容と会場設営（上記写真参照）

① 祭り開会式

宵祭で制作した大漁旗をつけた漁業船が沖に出港する

② 石巻駅・十八成浜住宅街⇄捕鯨船前広場のシャトルバスの停留所

大人300円小人160円 ※十八成浜住民は無料

③ 旧荻浜小学校の伝統創作舞踊『ザ・ソーラン』

旧東浜小学校・荻浜中学校の児童、生徒が踊り継いできた『獅子風流』のステージ
学校が閉校したため、どちらも受け継ぐことができなくなっている

④ 地元の食材・郷土料理が楽しめる飲食ブース

観光物産交流施設Cottuや周辺の飲食店がステージ観覧スペースの両脇に出店する
テーブル・椅子・パラソルも用意

⑤ ステージ観覧スペース

熱中症対策のため、テントを用意する

⑥ 神輿・山車の展示エリア

アーティストと住民が共に町内を練り歩いた後はここに神輿・山車を展示し、
作品名とアーティスト名の札を立てる

捕鯨船第16利丸

高齢者や福祉施設の入居者が作った装飾品を飾る

出港セレモニーの船が港に戻ってきたら大漁旗の展示もする

ボランティアの募集について

2025年6月より、宵祭・本祭の運営補助を行うボランティアを募集する。

〈応募資格〉

高校生以上で宵祭・本祭どちらにも参加できる方

※募集前にオンライン説明会を開催

当日は周辺宿泊施設の利用可能

〈ボランティアの内容〉

当日は本部・救護・撮影・誘導・設営の5つの係に分けられる

係ごとに色が異なるTシャツが配られる。

内容 3 みんなで祭りの準備を行う

ラッピングバスをつくろう

日時：2025年5月30日～6月15日

祭りの宣伝・当日のシャトルバスとして利用する路線バスに絵を描く。
宮城県内の小学校にホワイトボード素材のシートを貼った宮城交通の路線バスが行き、小学生（低学年）に絵を描いてもらう。



アーティストがバス1台に1～2人乗って小学校に行き、説明や準備を行う。

1地域2台ずつ計14台用意

イメージ図
祭りの名称と開催日時・QRコードをバスに貼る。
QRコードを読み込むと公式ホームページが閲覧できる。



・準備

事前にこの企画に協力してもらう小学校と宮城交通に連絡する。
バス会社の方とホワイトボード素材のシートをバスに貼っておく。

・取り組み

小学校低学年のせいかつ科の授業の一環として行う。
小学生が油性ペンを使ってバスに自由に絵を描く。
絵を描いた後はみんなでバスに乗って町を探検する。

当時生まれていなかった子供たちに震災の記憶を受け継ぐことができる。
小学生が祭りに関心を持つことで家族と共に足を運んでくれるかもしれない。
周りの人々や地域・自然について考えるきっかけになる

・バスの活用法

祭り開催前には路線バスとして利用して街中を走ることで祭りの宣伝となる。
当日はシャトルバスとして利用し、石巻駅・十八成浜⇄会場を運行する。

衣装・会場装飾品を手作りしよう

活動：2025年5月15日から開始 毎週2日程度 10時～13時

場所：観光物産交流施設 Cottu (こっつ)

十八成浜・鮎川浜の住む高齢者や福祉施設に入居している人々が集まり、アーティストと共に祭り当日に身につける髪飾りや足袋、会場装飾に必要な提灯などを作る。

・準備

石巻市役所や牡鹿半島地域包括支援センターである社会旭寿会・障害者福祉事業所であるくじらのしっぽと連携する。

アート祭り公式ホームページと石巻市ホームページでの告知、地域の掲示板にポスターを貼る。

参加は電話・はがきにて受付し、後日詳しい案内用紙を自宅に郵送する。

受付期間2025年に3月15日～4月15日

参加者には毎月、活動日を記したカレンダーを渡す。

参加者は自分が参加する日に○をつけて提出し、お互いに活動日の把握をできるようにする。

・内容

参加者はアーティストと共に足袋や提灯を作る。

昼食やお茶菓子の提供がある。

十八成浜・鮎川浜の住宅街と入居施設から無料の送迎車が毎回が出る。



髪飾り・足袋は宮城県の伝統工芸品である常盤紺型染を使用する。
足袋に使う布は事前に型紙通りに裁断しておく



提灯に使用する和紙は宮城県白石市で作られている白石和紙を用意し、生産過程で出てくる端切れを活用する。

画用紙で提灯の型を作り、上から和紙を貼って作る。
和紙は水彩絵の具を使ってみんなで折り染をする。

髪飾り・足袋・提灯それぞれ作り方マニュアルを事前に作成する

ホームページやSNSの運営について

2024年12月にアート祭りホームページと公式SNSを開設する

公式ホームページの活用

①イベントの宣伝

イベントの内容や開催日時が詳しく書かれている。
運営スタッフによるブログを見ることができる

②申し込み・お問合せ専用メールフォーム

滞在制作やボランティア・ワークショップに参加したい場合は
このメールフォームで申し込む

③おしか半島OXクイズ

牡鹿半島にちなんだOXクイズに1日1回チャレンジできる。
全問正解すると本祭の飲食模擬店で使える割引券が手に入る。

公式SNSの活用

公式SNSのInstagramとX（旧Twitter）を開設する
制作風景のタイムラプス動画やアーティストが牡鹿半島
のお気に入りスポットを紹介する動画が見られる

全イベント終了後の取り組み

アーティストによる滞在制作報告会

現代美術の作品を扱う美術館にて、アーティストが滞在制作の活動内容やイベントについて美術館の一般来館者に向けてプレゼンをする。

キュレーターや学芸員向けのシンポジウム

東京都内にてイベントの持続的な開催を可能にするために行う。

- ・ イベントに携わるボランティアや来場者を増やす、関心を持ってもらうため。
- ・ 美術館などの施設と協力し、スムーズに運営を行うため。

参考

震災とアート あの時芸術に何ができたのか 倉林靖

かかわり方のまなび方 西村佳哲

<https://news.yahoo.co.jp/articles/d8960c47b20c7084232731c7bdc7eeb6dd0724ff?page=5>

<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/-/38774>

<https://www.asahi.com/articles/ASQ2C6TL6Q29UTIL01D.html>